

## リュック流ガーデン講座一 庭づくりの基本



グロッセ・リュック氏が設計部長をつとめる（有）みどりのゆびの埼玉白岡町の拠点「ベルギーカフェ&ガーデニングショップ」の前庭は、リュック流ガーデンが折々に姿を変え、街並みを彩ります。



冬場も豊かな色彩が目を楽しませる、針葉樹を主体に構成された住宅のエントランス...コニファーガーデン。



「多種多様な植栽は、自然な雰囲気をかもしだし、葉の様々な色合いの変化が楽しめるだけでなく、植物が互いに補い合って病虫害に強い環境をつくります」

## 土にこだわり、長い目で庭を育てる

来日して15年、日本ガーデン界の草分け的存在のグロッセ・リュックさんに取材し、日本の現状やご自身の庭づくりのポリシーなど、示唆に富んだお話をうかがいました。

日本では「家」と「庭」に統一感がなく、バラバラな印象を受けることが多いのですが、これは、それぞれが別々につくられているから。設計段階では建物のプランが主体で、庭のことはあまり考えずに建物の位置を決め、線を引いてしまう。さらに、施工が済むと建材の残りを庭に埋めてしまう。これでは、家と調和した美しい庭はつくれませんし、土も悪いので植物も満足に育ちません。家と庭は本来別のものではありません。設計の一番最初の段階、何も敷地の段階から、一緒にプランしていくべきものなのです。



グロッセ・リュック氏

1951年ベルギー、ブリュッセル生まれ。 пейзаジスト（景観設計家）。ベルギーのマリモン・エコール・シュペリウール造園学科卒業。フランスとベルギーにて造園設計・施工・監理業務から大使館の庭師を経て1987年来日。現在、（有）みどりのゆび取締役設計部長。岩手県と埼玉県を拠点にリュック流ガーデンのデザイン・施工・オブジェデザインの分野で活躍中。著書「ガーデンデザイン」（コスモヒルズ刊）

### 自然界と同じ多種栽培

私の庭づくりの基本は、まず「土」です。土は、人にたとえれば「体質」であり「体力」であって、植物の命を育む根幹です。ですから土壌を良くすることに時間も費用もかけます。痩せた土や建材クズなどが埋まった敷地なら、新しい土を運び込む場合もあります。しかし、あらかじめ家を建てる時に掘り返した土を敷地の一角にストックしておければ、あとでそれを再利用できますから、余分な費用もかからず資源もムダになりません。設計段階から庭も一緒に計画するという事は、こういう点でも合理的です。

土づくりは有機栽培にこだわっています。農薬を使わないので、多少の病気や虫食いが発生する場合がありますが、それは自然なこと。できるだけ環境にやさしく、自然と人間が共生できる庭づくりを心がけています。

また、植物の植え方は、単一栽培でなく、野原に咲き乱れる草花のように、いろいろな種類の植物を取り混ぜて植えるようにしています。これは視覚的にも変化があって楽しいですが、それだけでなく、種類の違う植物が助け合いおぎない合って、病虫害に強い環境ができるのです。

### 3年後の完成を楽しみに

日本ではしばしば「今の時点で完成している庭」が求められますが、庭とは育っていくもの。最初から見た目優先で、苗などを隙間なく植えてしまうと、根が窮屈になって枯れてしまうことさえあります。ですから、私のつくる庭は「3年後を楽しみにしてください」と言っています。

たとえば、いま5mの木を植えるのは費用もかかるし、その木が慣れるためのリスクも大きいですね。しかしいま2mの苗木なら費用も安く植え替えもやすく、数年後には5mになります。長い目でみて成長する庭づくりこそが、本当の庭の楽しみではないでしょうか。

ただ、その過程で植物が元気を失ってしまう場合もあります。その場合は、土が合わないか、気候風土に適應できないか、どちらかです。そういう植物を機械的に引っこ抜いて他のものと差し替えるのは簡単ですが、私は、土を替えたり植える方角を変えてみるなどケアしながら植物とつきあ



「私の庭づくりはまず土づくりから...植物の命を育む根幹であり、土壌改良には時間も費用もかけます」

ていきます。手間はかかりますが、こういう「監理」の仕事も、ガーデナーの大切な業務だと思うのです。最後に、これは庭の設計からやや飛躍しますが、庭づくりというのは大局的には「街並み」を考えることにつながります。都市計画には、街路樹や公園緑地を設計するプロのガーデナーの目が必要です。私自身、単に庭の中だけでなく、「街の景観を設計する」という意味で「 пейзаジスト（景観設計家）」という肩書きを使っています。

以上が、私の庭づくりの考え方です。こういった基本を押さえつつ、さまざまな植物やマテリアルを組み合わせて空間をデザインしています。「庭は、驚きと発見と神秘とユーモアに満ちている」.....これが私のモットー。次回からは、そんな私の庭づくりの手法を具体的にご紹介していきます。

「リュック流ガーデン講座」は全4回シリーズでお届けします。次回より、リュック氏の庭づくりの大切な要素である「色」「マテリアル」「遊び心」をテーマに順次解説していきますので、お楽しみに。

「驚き、発見し、神秘を感じ、ユーモアに満ちた庭...これが私の庭づくりのモットーです」

